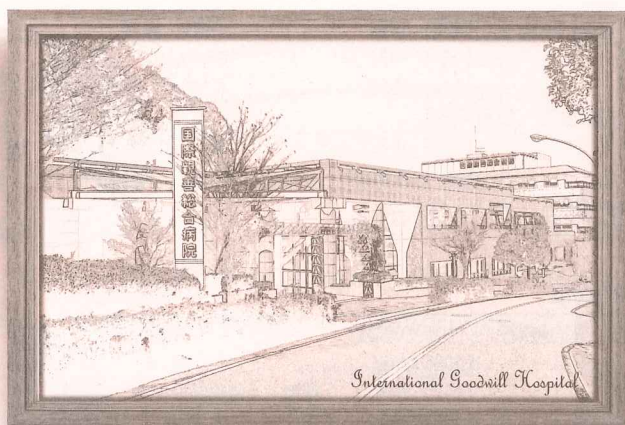


病院だより



外来アンケート調査の結果について

Mieko Ito

伊藤美恵子

脳卒中の予防について

Yoshinori Tanizaki

谷崎 義徳

研修医 1 年目を終えて

Minami Takahashi

高橋みなみ

国際親善総合病院

URL <http://shinzen.jp>

〒245-0006 横浜市泉区西が岡 1-28-1
TEL 045 (813) 0221 (代 表)
FAX 045 (813) 7419 (庶務課)

国際親善総合病院看護部
モバイルサイト



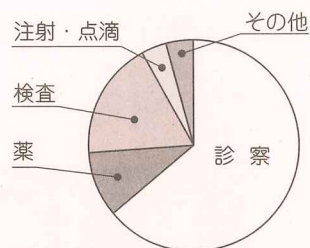
外来アンケート調査の結果について

当院では、平成23年11月28日(月)～30日(水)に外来患者さまを対象として「外来アンケート調査」を実施いたしました。

ご協力いただきました皆さまにお礼を申し上げますとともに、その概要をお知らせいたします。

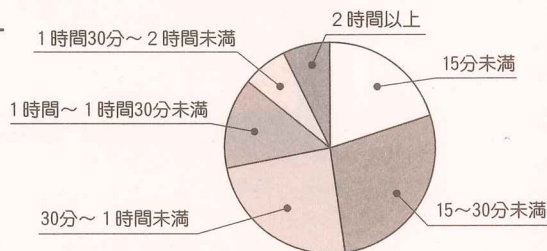
◆ご来院の目的

診 察		【490】	64%
薬		【 80 】	10%
検 査		【142】	18%
(血液検査・X線検査・超音波等)			
注射・点滴		【 30 】	4%
そ の 他		【 27 】	4%
有効回答数【591】 無 回 答【12】			



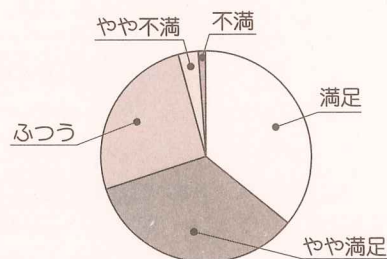
◆診察までの待ち時間

(予約の方は、予約時間からの待ち時間)			
15分未満		【105】	20%
15～30分未満		【152】	28%
30分～1時間未満		【126】	24%
1時間～1時間30分未満		【 76 】	14%
1時間30分～2時間未満		【 37 】	7%
2時間以上		【 39 】	7%
有効回答数【535】 無 回 答【68】			



◆全体として当院に満足していますか？

満足		【185】	36%
やや満足		【177】	34%
ふつう		【135】	26%
やや不満		【 14 】	3%
不満		【 3 】	1%
有効回答数【514】 無 回 答【89】			



上記項目以外にいただきました貴重なご意見につきましても、今後の改善に繋がるよう病院全体として検討いたしてまいります。

なお、外来アンケート調査の結果につきましては、ホームページ(<http://shinzen.jp/>)上でも公開させていただきますのでご覧ください。

サービス質向上委員会 伊藤 美恵子

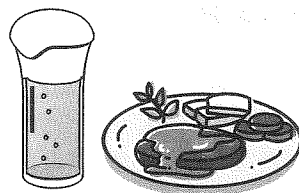
脳卒中の予防について

—脳卒中治療ガイドライン2009から—

脳卒中とは、脳神経に突然起こる病気を指しますが漠然としており、大まかに分け、脳動脈が出血するものと、詰まってしまうものに分かれます。出血するものには、高血圧性脳出血 13.7%、クモ膜下出血 6.4%、詰まってしまうものには、一過性脳虚血発作 5.8%、アテローム血栓性梗塞 24.1%、ラクナ梗塞 22.7%、心原性脳塞栓症 19.2%等があります。

脳卒中は、日本人の死亡原因として、癌、心疾患に次ぎ第三位と依然として高率です。また、癌や心疾患と比べ、慢性期に寝たきりになることが多いといった最大の特徴があります。また、欧米に比べても日本の脳卒中発生率は高く、一日の塩分摂取量が多いことなどが原因と言われています。また最近、脂質の多い食事が増えたことにより、男性に肥満が増加。このため動脈の壁にコレステロールの塊がつき、脳血管を閉塞させてしまう脳梗塞が増加しています。この様な現状から、脳卒中の予防と治療は大変重要です。今回は、危険因子をあげ、予防を中心に説明したいと思います。世の中には

様々な情報源がありますが、幸いにも脳卒中に関してはしっかりとしたガイドラインがあります。そこで2009年に発表されたガイドラインにもとづき、危険因子と目標値を確認し、解説していきます。



脳神経外科医長 谷崎 義徳

このテーマは

平成24年4月13日(金) 15:00から約1時間

の健康懇話会にて講演予定です。

(入場無料、予約不要、どなたでもご自由にご参加ください。)

研修医1年目を終えて

今回はこのような紹介の場を与えていただき、大変光栄に思います。私たち初期研修医は、大学を卒業して医師国家試験を合格した後の2年間、様々な科をローテーションしながら医師として仕事・勉強に励んでおります。この2年間は私たちにとって、初めて社会人として生活する期間であり、それと同時に将来の医師像を描き、模索していく大切な期間でもあります。そのような2年間で当院で過ごし、多くの心優しい患者様と職員の皆様に触れ合っ

てゆけることを心より感謝しております。

現在、当院には私を含め3人の初期研修医が勤務しています。2年目の研修医が1人、1年目の研修医が2人であり、少人数ながら互いに支えあって日々働いております。私は、昨年の4月より医師として勤務を開始しました。最初の1~2か月は、病院のシステムや各部署の配置を理解することで手一杯であり、医師としての業務が疎かになりがちでした。その中でも、患者様がお声をかけてくださったり、先輩の研修医や職員の皆様がアドバイスしてくださったりしたことで、慣れない環境にも次第に馴染んでゆくことができました。特に、私が研修医であることを伝え、励ましの言葉をかけてくださる患者様も多く、大いに元気をいただきました。私たちは通常1~2か月ずつ、様々な科に属して新米医師として勤務します。私はこれまで循環器内科、神経内科、腎臓・高血圧内科、麻酔科、放射線科、産婦人科、外科を研修し、現在は救急外来で働かせていただいています。このような研修システムが開始されたのは10年程前であり、それ以前の研修医は大学卒業後、すぐに専門とする科を選択し、大学の医局に入局することが通常でした。新しい研修システムの導入により、私たちは様々な科で実際に働くことでそれぞれの特性やスタイルを学び、将来的にどの科を専門とするか、どの分野に興味をもつことができるかを見極める猶予を2年間いただくことができました。

気がつくと、あっという間に1年間が終わりつつあり、また今年も桜が満開となる頃には新しい研修医が私たちの仲間となります。この1年間で学んだことは数多くありますが、それ以上に多くのことをまた1年間学び、患者様や職員の皆様に伝えていけるよう、一層精進してまいりたいと思っております。

研修医 高橋 みなみ

